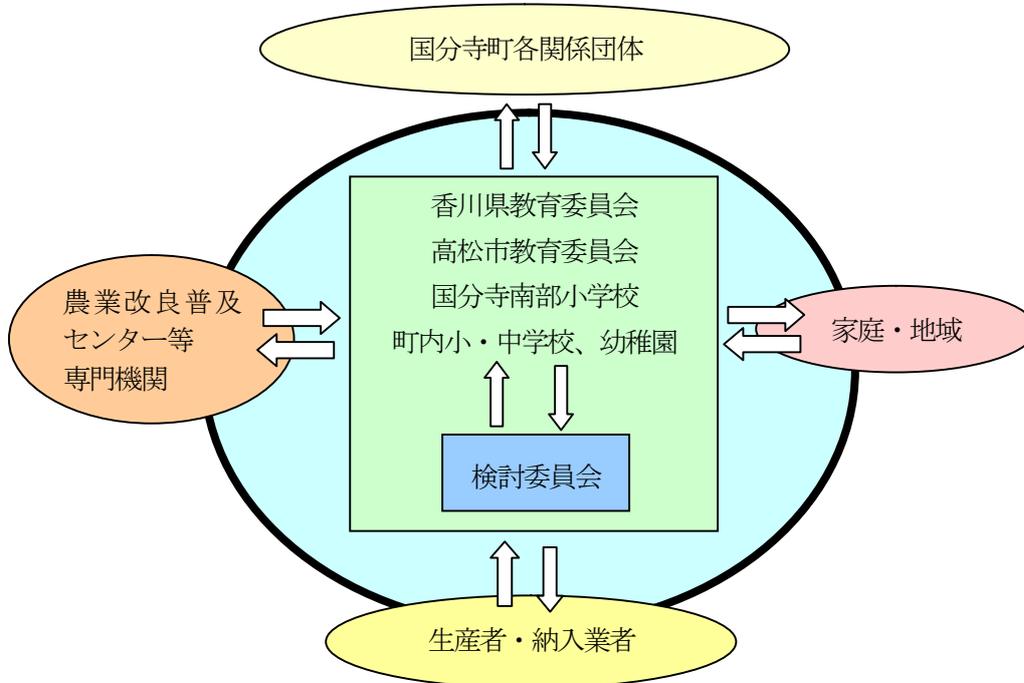


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業報告書

都道府県名	香川県
推進地域名	高松市国分寺町

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1	幼・小・中が連携した各教科等と関連付けた食に関する指導のカリキュラムの作成
<p>① 食に関する指導に係る全体計画の見直しと、幼稚園、小学校、中学校の発達段階に応じた食育カリキュラムの作成 今年度は栄養教諭を中心に、各校が互いの現状を把握し、食育に関する小学校から中学校へのスムーズな受け渡しについて検討するための連絡会を持った。その中で、まず「マイ・ランチの日」「食物アレルギーの対応」「地域との連携（ふるさと給食を含む）」の3つの項目について、小学校から中学校に進んでも円滑な指導が行えるよう、小学校の食育の内容を検討した。今後も引き続き栄養教諭の連絡会を持つとともに、幼稚園や保育所の食育担当者も参加する国分寺町教育研究同志会の食育推進部会において、さらに幼稚園と保育所の連携及び幼稚園や保育所と小学校との連携についても検討を続け、国分町全体の明確な食育推進カリキュラムの作成を目指す。</p> <p>② 教科や総合的な学習の時間等における地域の各団体と連携した体験活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食物の栽培活動 <p>＜3年生 そら豆の収穫・植え付け＞ 地域の生産者の上野さんから指導を受け、5月に3年生全員でそら豆の収穫を行う。収穫したそら豆はその日の給食で全校生に食べてもらった。給食で豆が苦手な児童も、そら豆はおいしいと言って食べるようになった。また、11月には同じく上野さんから指導を受け、来年の3年生が同じように収穫できるよう、そら豆の植え付けをした。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div>	

< 5年生 バケツ稲栽培 >

香川県東讃農業改良普及センターの中井さんの指導を受け、5月のもみの芽だしから11月の籾摺りまでの活動を行った。日本人にとって最も大切な食料である米を自ら栽培し、米作りの難しさや大変さを知ることができた。栽培した米は、家庭科の学習「ごはんとみそ汁」の調理実習で試食し、おいしく味わうことができた。



収穫した米を使って、「ごはんとみそ汁」の学習で炊飯をした。



- ・地域に伝わる郷土料理づくり（2月実施予定）、健康によいおやつ作り（2月実施予定）等

< 6年生 郷土料理（うちこみうどん、まんばのけんちゃん） >

国分寺町生活研究グループの帯包さんの指導で、「うちこみうどん」と「まんばのけんちゃん」を作る。まんばは11月に帯包さんの指導で植え付けをし、調理の当日の朝に収穫した物を使った。



< 4年生 昔のおやつ >

国分寺町食生活改善推進協議会の指導で、「ほっぼら焼き」「さつまいもとしあんのと茶きんしぼり」「げんこつあめ」「白玉きなこだんご」を作った。ほっぼら焼きには、4年生が11月に植え付けをしたさめき菜を収穫して使った。



- ・地域と連携した調理実習

< 3年生 しいたけクッキー >

3年生は社会科と総合的な学習の時間に、地域のしいたけ農家について学習してきた。そしてしいたけクッキーのスペシャリスト福井さんの指導でしいたけを使ったクッキー作りに挑戦した。



<2年生 もちつき おでんパーティ>

2年生は12月に国分寺町婦人会や老人会等の協力でもちつきをした。また2月には、国分寺町婦人会の指導で、グリーンパークで自分たちが栽培して収穫した大根を使って、おでんパーティをした。



<楽しいもちつき>

<ホカホカ、おでんパーティ>

③ 栄養教諭による学校給食を活用した関連教科等の指導の充実

- ・栄養教諭による小学校の指導

家庭科や特別活動、総合的な学習の時間に、栄養教諭による食に関する指導を行った。



4年生 望ましい生活習慣とおやつ



5年生家庭科 ゆでる調理をしよう



5年生 朝ごはんコンテスト



6年生家庭科 マイ・ランチコンテスト

- ・栄養教諭による幼稚園の指導

栄養教諭が幼稚園の給食訪問を行い、食器の持ち方や上手な食べ方の指導をするとともに、クイズや紙芝居で食に関する指導をおこなった。



テーマ2 地場産物や学校給食を活用した効果的な食に関する指導の充実と啓発

① 地場産物等を教材として活用する効果的な食に関する指導

- ・地域生産者と連携した地場産物活用計画の作成

ふるさと給食の年間献立及び使用食材予定表を作成し、生産者に事前に渡すとともに、生産者との連絡を密にして、作物の生育状況を把握しつつ月ごとの献立を微調整するようにしている。

- ・給食の時間の指導の充実

毎月のふるさと給食実施の際には、給食の時間の指導カードを作成して学級担任に配布し、各クラスでの指導に活用している。

- ・教科等での食に関する指導の充実

社会や総合的な学習の時間に、地域の生産マップとふるさと給食を活用して、地元の農業についての理解を深めた。

- ・ 学校給食の時間を活用した、生産者等と児童の交流推進

1月の給食週間に地域の生産者や食育でお世話になっている方々を招いたふれあい給食（招待給食）を実施した。



- ② 学校給食に活用する地場(町内)産物の啓発活動
子どもたちや地域の地場(町内)産物への関心や理解を深めるために、地場(町内)産物の生産地に表示板を設置したり、生産マップを作成、配付したりするなどの啓発を行った。



児童や家庭に配布した生産地マップ

授業で活用する拡大版の生産地マップ

テーマ3 子どもの個に応じた健康の保持増進を図るための家庭・地域との連携の強化

- ① 生活習慣病予防のための個別指導の充実

- ・ 小児生活習慣病予防検診有所見者、肥満傾向児、偏食児等やその家庭に対する個別相談のあり方の検討と実践
小児生活習慣病予防については、夏休み前に養護教諭と連携して、4年生の全クラスに望ましい生活習慣についての指導を行った。さらに小児生活習慣病予防検診有所見者について、12月に保護者との面談を行った。
- ・ 個別指導のための資料等の作成
保護者との面談に際しては、養護教諭と連携して作成した個人カルテを用い、おやつの実物や有所見に関するプリントも活用しながら指導した。



- ・ 要個別相談児童やその他の児童の健康増進のための「国南元気っ子クラブ」において、運動指導員を招いての運動教室を開催（2月26日、27日体育館にて）

日常生活に運動を取り入れるため、現職教育の体育部会（体育、保健、食育）と連携して4年生児童を中心に、運動指導員の指導による「気軽に運動！毎日の生活に簡単な運動を取り入れよう。」を行った。



- ② 児童生徒の望ましい食習慣を形成するための啓発活動

- ・ 親子料理教室の開催

<幼稚園親子料理教室>

夏休みには、栄養教諭が講師で幼稚園の親子料理教室を行った。

<夏休み親子料理教室>

国分寺町食生活改善推進協議会の指導で、夏休み親子料理教室を行った。



<PTA 親子料理教室>

12月には、PTA 主催の親子料理教室を行った。プロの調理師（保護者）の講師の指導のもと、親子で楽しく料理を作り、食べることができた。



- ・「元気っ子ランチョンマット」を活用した「早寝 早起き 朝ごはん」指導の充実
<1、5年生に指導>



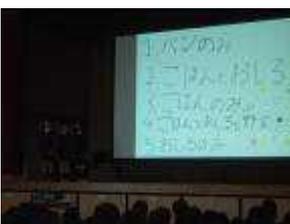
- ・食育講演会の開催

自由参観日に、5年生児童と保護者を対象に食育講演会を開催した。「めざせ！早寝、早起き、朝ごはん！」のテーマのもと、綾川町国民健康保険綾上診療所の十枝めぐみ医師の講演を拝聴した。



- ・学校保健委員会の開催（2月21日開催予定）

学校保健委員会では「生活習慣について考えよう」のテーマのもと、保健委員会の児童が「ぐっすりすっきり」、体育委員会児童が「やる気どどん」、給食委員会児童が「もりもり朝ごはん」の発表を行い、3年生以上の児童や保護者に「早寝早起き」「しっかり運動」「バランスのとれた食事」について啓発を行った。



- ・食育カレンダーの配布

3校の栄養教諭の共同作業で各学校の食育の取り組みを写真でまとめ、国分寺町の食育カレンダーを作成し、

町内の幼稚園、小学校、中学校に配布した。



③ 学校給食におけるアレルギー対応についての研究

- ・アレルギー対応マニュアルの作成と保護者への周知

高松市教育委員会が作成した学校給食における食物アレルギー対応マニュアルをもとに、国分寺南部小学校の学校給食における食物アレルギー対応マニュアルを作成した。1月に行われた新入学児の入学説明会において、栄養教諭から学校給食における食物アレルギーの対応について保護者へ周知した。学校給食の食物アレルギーについては、今後も各校の栄養教諭が連携して、取り組み内容の検討を行っていく。

テーマ1～3に共通する具体的計画

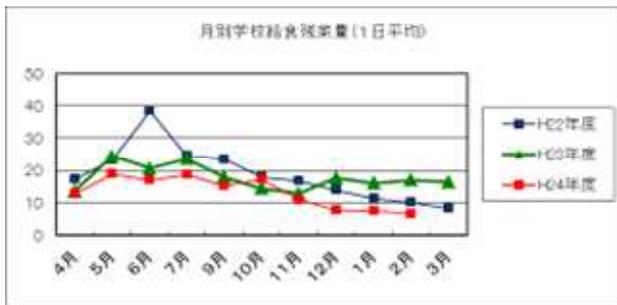
<平成24年度6月実施の食生活アンケートの結果より>

項目		数値目標	実態	参考 H23年度6月	参考 H23年度2月
① 望ましい食習慣の確立	朝食を毎朝食べる児童	90%以上	90.0%	88.4%	89.4%
	自分の健康を考えて食事ができる児童	70%以上	71.6%	67.2%	66.2%
② 豊かな心の育成	食事の時にいつもあいさつができる児童	70%以上	65.4%	65.4%	65.5%
	嫌いな食べ物でもがんばって食べようとする児童	98%以上	95.1%	96.6%	96.0%
③ 社会性を身につける	食事のお手伝いをする児童	90%以上	92.2%	88.5%	89.0%
	家族といっしょに食材選びをする児童	85%以上	81.8%	81.7%	81.0%

上記のアンケートの結果より、豊かな心の育成の部分が目標の数値より低くなっている項目が多い。このことから、今回の事業を通して食に関する知識面だけでなく、体験活動や地域、家庭との連携を重視した食育活動を展開していく。

本事業における評価指標と考察

- ① 朝食欠食率 朝食を毎日食べる児童90%以上を目指す。 **90.0%→90.7%**
 少しずつではあるが、授業での取り組みや給食委員会及び保健委員会の呼びかけにより、毎日朝食を食べる児童の割合が増えている。今年度は90%以上の目標数値を1年間通して達成することができた。
- ② 地場産物活用率 30%以上を目指す。 **高松市 平成23年度 30.8%→平成24年度 28.8% (12月末現在)**
 平成24年度は悪天候により地場産物の収穫量が減ったため、12月末現在では活用率が下がっている。地場産物の活用は気候に左右されるので、いつも一定の活用率を保つのは難しい面がある。
- ③ 残食率 給食の残食量(1日の平均)を昨年度より減少させることを目指す。
平成23年度 1日平均 17.7kg/日→平成24年度 1日平均 13.3kg/日



給食委員会が、給食の時間にグラフ等を使って残さず食べるよう呼びかけを強化した結果、10月を除くすべての月で残食量の1日平均量(kg)を減らすことができた。
 また、学級担任による各クラスへの指導も、定着させることができた。

- ④ 自分の健康を考えて食事ができる児童70%以上を目指す。 **71.6%→67.9%**
 6月の調査より2月の調査結果の数値が下がってしまったが、昨年度の2月(66.2%)よりは増えている。学年別には4、5年生の数値が下がっていたが、学習した内容がまだ実生活に生かせていない状況が伺える。次年度は家庭科等の学習を通して、さらに実践につないでいけるような指導を行いたい。
- ⑤ 食事の時にいつもあいさつができる児童70%以上を目指す。 **65.4%→66.8%**
 2月の結果は6月より若干よくなっている。給食の時間を中心に引き続き指導を行いたい。
- ⑥ 嫌いな食べ物でもがんばって食べようとする児童98%以上を目指す。 **95.1%→96.4%**
 まだ目標数値には届かないが、2月は6月より数値が増えている。その結果、残菜量も減ったことが伺える。
- ⑦ 食事のお手伝いをする児童90%以上を目指す。 **92.2%→89.1%**
 6月の調査より2月の調査結果の数値が下がってしまったが、昨年度の2月(89.0%)よりは増えている。2、4年生で大きく減少していたので、次年度は食育だよりで家庭に向けて一層呼びかけていきたい。
- ⑧ 家族といっしょに食材選びをする児童85%以上を目指す。 **81.8%→81.7%**
 ほぼ横ばいで、昨年度の数値ともあまり変化がない。「マイ・ランチの日」だけでなく、平日にも家族といっしょに食について考えられるよう、啓発を続けていきたい。

本事業の成果

1年足らずの取り組みではあったが、地域の多くの方々の協力を得て、児童は様々な食の体験を積むことができた。

テーマ1では、栄養教諭の検討会を持つことにより、それぞれの学校の食育の現状や課題がわかり、今後の連携について具体的な内容を定めることができた。また体験活動については、国分寺町内の各団体の丁寧な指導により、児童は安全に楽しく食の体験を行うことができた。特に学年の発達段階に応じた調理体験ができたことは、マイ・ランチの日の指導にもつなぐことができ、このことについては家庭に向けてしっかり啓発していきたい。さらに、栄養教諭が教科等の指導に関わったことで、朝ごはんやマイ・ランチの指導について、児童は知識面、実技面において、より深く学ぶことができた。

テーマ2では、ふるさと給食を核に、自分たちの住む地域やそこで取れる食材の素晴らしさ、学習や給食でお世話になった方々への感謝の気持ちなどを育てることができた。ふるさと給食については1年生保護者の給食試食会や地域の方を招待するふれあい給食の時にも実施することで、多くの家庭や地域にもその取り組みを知らせることができた。

テーマ3では、児童は健康な生活を送るためには食生活はもちろんのこと、睡眠や運動習慣など毎日の生活習慣を良くすることの大切さについて実践を通して学ぶことができた。また、親子での活動や自由参観日に食育の時間を設定したこと、食育カレンダーの配布などで、多くの保護者に学校の食育の取り組みについての関心を高めることができた。さらに、体育部会のリーダーや養護教諭と栄養教諭が連携して事業を行ったことで、食生活だけでなく、児童の生活全体の改善に向けた指導を行うことができた。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

○地域との連携は関係団体の協力がありスムーズに行える状況にあるが、家庭との連携については家庭によって食育への関心度の温度差があり、啓発資料の作成や行事参加に対する効果的な呼びかけ方法についてさらに工夫が必要である。また、学校内での指導についても、例えば給食の配膳や後片付けの指導など、学級担任によって取り組み方が異なる場合が見受けられるので、職員会等を通してさらに共通理解を図る必要がある。

○幼稚園や保育所、小学校、中学校における一貫した食育のカリキュラムの作成に当たっては、1年間の単年事業の中ではまとめ上げることができなかつたので、さらに今後も国分寺町教育研究同志会の食育推進部会においてそれぞれの食育や子どもたちの実態を把握しながら作り上げていく必要がある。

○総合的な学習の時間数が減ったこと、高松市が3学期制に戻ることなど、厳しい授業時間数の中でどれだけ食育の時間を保つことができるのかが、次年度の年間計画を作成するのに当たって大きな課題となっている。次年度は教科や特別活動との連携をさらに強化した年間指導計画の作成を行いたい。

○個別の相談指導については、児童や家庭のプライバシーに関わる内容が多く、いじめや中傷につながる危険性も考えられるので、該当児童のみを取り出す指導は、今回は行わなかつた。栄養教諭が学級担任や養護教諭と連携して、今後どのような具体的な指導を行えばよいのか、学校全体で再考する必要がある。現職教育の中に設けている三部会の中の食育部会と保健部会を中心に、さらに検討を進めていきたい。